

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2026年 第25週（6月15日～6月21日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 増加続く」

第25週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,340例であり、前週比7.6%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.44、2.56、2.36、0.83、0.55である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比1%増の984例で、南河内8.07、北河内7.82、中河内7.74、大阪市北部5.77、豊能5.20であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は5%減の463例で、北河内5.50、中河内3.47、南河内2.67である。

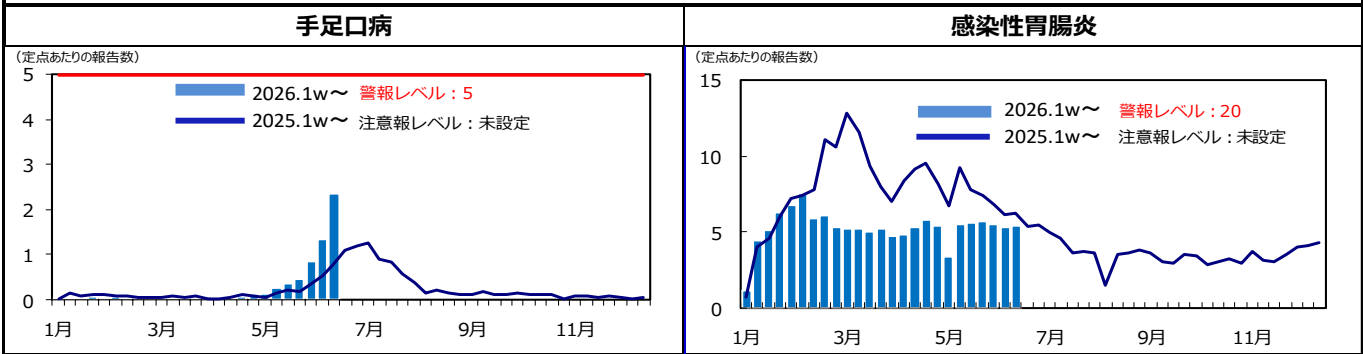
手足口病は76%増の427例で、北河内6.18、大阪市北部4.54、南河内2.93であった。全ブロックで前週から増加した。

咽頭結膜熱は3%減の150例で、中河内2.68、北河内0.95、泉州0.85である。

ヘルパンギーナは37%増の100例で、泉州1.30、大阪市北部1.08、大阪市南部0.65であった。

新型コロナウイルス感染症は35%増の220例で、定点あたり報告数は0.77である。北河内1.89、中河内1.45、南河内1.00、泉州・大阪市西部0.67であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は5%増の10,014例で、定点あたり報告数は35.14である。中河内47.79、北河内47.78、南河内46.48、大阪市北部43.50、堺市34.72であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第25週6月15日～6月21日）

第25週の順位	第24週の順位	感染症	2026年第25週の定点あたり報告数	前週比増減	2025年第25週の定点あたり報告数	2026年第25週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.44	1%増	6.24	1歳_19%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.56	5%減	1.73	4歳_14%
3	3	手足口病	2.36	76%増	0.80	1歳_51%
4	4	咽頭結膜熱	0.83	3%減	1.03	1歳_33%
5	7	ヘルパンギーナ	0.55	37%増	0.51	1歳_33%
参考		新型コロナウイルス感染症（急性呼吸器感染症定点報告疾患）	0.77	35%増	1.04	10-19歳_41%
参考		急性呼吸器感染症（急性呼吸器感染症定点報告疾患）	35.14	5%増	38.45	1-4歳_44%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第25週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

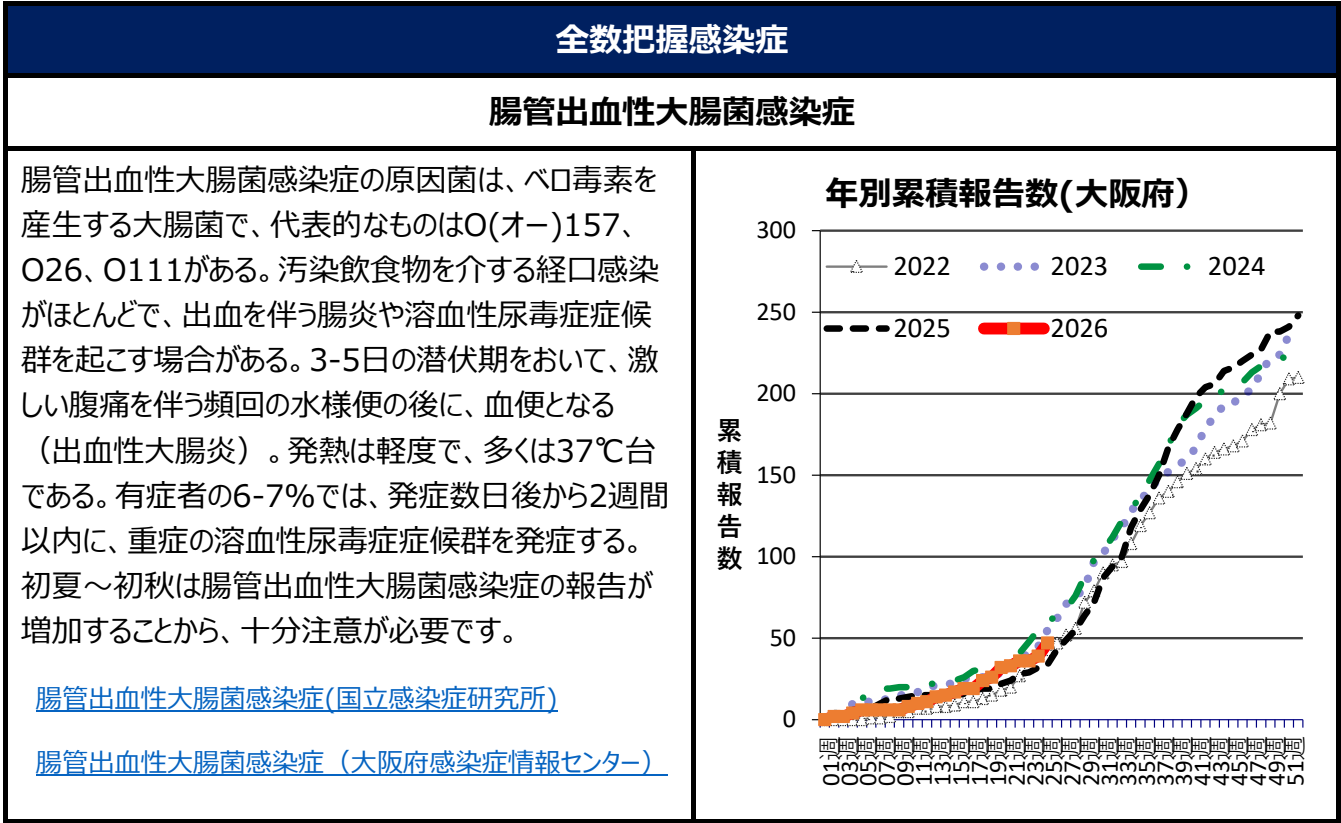


表2. 大阪府全数報告数（2026年 第25週6月15日～6月21日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府内 累 積 報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8	1				2		1	4	47
4 類感染症	レジオネラ症	4	2		1					1	61
5 類感染症	アメーバ赤痢	1						1			23
	急性脳炎	1							1		10
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1			1						41
	後天性免疫不全症候群	2				1				1	35
	水痘（入院例）	2								2	34
	多剤耐性緑膿菌感染症	1								1	19
	梅毒	7	1			1				5	593
	百日咳	4					2			2	165
結核 (2026年4月分)	結核 新登録患者数：36名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 9名) (府内累積報告数 290名、内 肺・喀痰塗抹陽性 93名)										

(2026年6月23日 集計分)